

授業概要

講義はテキストを使用し、テキストに沿って経済学の歴史的背景、経済学者の人物像など、理論だけでなく、多面的に経済学の理論の歴史を理解し学びます。経済学は資本主義経済の成立とともに、国によって、時代によって特徴のある様々な理論が形成されてきました。この講義では主要な経済学の学説(理論)が現代の経済学とどのような関係にあるのかを関連付けながら経済学の理論史の基礎を学びます。

授業計画

第 1 回	経済学の歴史を学ぶ意義(ガイダンス)
第 2 回	経済学誕生以前
第 3 回	前期重商主義の経済思想
第 4 回	後期重商主義の経済学
第 5 回	重農主義の経済学
第 6 回	市場社会論の系譜
第 7 回	古典派経済学の成立
第 8 回	古典派経済学の展開
第 9 回	授業内中間試験
第 10 回	カール・マルクスの経済思想
第 11 回	カール・マルクスの『資本論』
第 12 回	経済学の主流派と反主流派—経済学の方法
第 13 回	歴史学派の経済学
第 14 回	限界効用という考え方
第 15 回	ケインズの経済学とその目的
第 16 回	期末試験

到達目標

主要な経済学者の学説の基本を理解すること。経済学の歴史を通史的に理解すること。現代の経済学や経済政策がどのような経済学者のどのような背景からなる経済学によって基礎づけられているか、その目的は何かを理論史と思想史の観点から理解することを目標とする。

履修上の注意

途中で理解度を確認するための確認テスト(中間テスト)を実施する。

予習・復習

テキストを読み理解すること。

評価方法

期末試験 50% 中間テスト 50%

テキスト

- 教科書名：『経済学史への招待』
- 著者名：柳沢哲哉
- 出版社名：社会評論社 2017
- 出版年 (ISBN)：978-4784518432